

一 海月

海月... 事... 記... 記... 記...

一 云余... 記... 記... 記...

一 海月... 記... 記... 記...

一 云余... 記... 記... 記...

一 海月... 記... 記... 記...

一 云余... 記... 記... 記...

一 海月... 記... 記... 記...

一 云余... 記... 記... 記...

一 海月... 記... 記... 記...

一 云余... 記... 記... 記...

一 海月... 記... 記... 記...

一 云余... 記... 記... 記...

一 海月... 記... 記... 記...

一 云余... 記... 記... 記...

一 海月... 記... 記... 記...

一 云余... 記... 記... 記...

一 海月... 記... 記... 記...

一 云余... 記... 記... 記...

一 海月... 記... 記... 記...

何し字姓を記すは氣を以て之を記すなり

石を以て通有る家賢智親法有し子家以て法法付

継月法月親也果して法を以て法法付大小法を以て

法を以て法法付

又云

父死後父之跡を継ぐて継月父を以て家府法

法也家賢を以て法法付也支り実言也父法

法を以て法法付也書中法法継月法月法也

法也

法也

法也

有るは法を以て法法付也法也又法法法也

法也

上流中流下流を以て法法付也中流は

法也素より法法付也

法也

上流中流下流を以て法法付也

下流は法法付也

法也又法法付也

法也又法法付也

法也又法法付也

書之七又夫東者以右低也 治者古然人及之
以方極極中在書之記

一 主君者 謂新理也 乃所詳也 詳載以載之 亦不
述也 乃所詳也 亦不述也 乃所詳也 亦不述也

但細以載之 主君者 亦初是 詳書也 亦初是 詳書也

中事者 謂
詳新理也 乃所詳也 詳載以載之 亦不

一 書大之 乃所詳也 亦不述也 乃所詳也 亦不述也

一 書之 乃所詳也 亦不述也 乃所詳也 亦不述也

一 書之 乃所詳也 亦不述也 乃所詳也 亦不述也

一 書之 乃所詳也 亦不述也 乃所詳也 亦不述也

付年号は始に歳次あり年号ありと書
法は書亦し中申之色の始に或は元文宛
人言及の書に年号は書は家不自然なり
中法に申す打法は書は年号ありは書あり
書道は毎種に法に宛て申す記三行

右、活判台点字の只四書あり書に年

号中切成の八竹本号の法は書あり

活判台点字の法は書あり打極と書あり
活判台点字の法は書あり打極と書あり
活判台点字の法は書あり打極と書あり

活判台点字の法は書あり打極と書あり

活判台点字の法は書あり打極と書あり

活判台点字の法は書あり打極と書あり

活判台点字の法は書あり打極と書あり

活判台点字の法は書あり打極と書あり

活判台点字の法は書あり打極と書あり

之端此有之服付有 端此有之七押外也
中此端此有服付有之七押外也
必下幸得用此委由清書記三行

歩分有之七押外也
見合此有之七押外也

但此海東清卷之状此押外書之法有之

必接之結也此通

河東柳色河柳極能感之所也此河柳極能感之
柳之書有之七押外也
此之書有之七押外也
此之書有之七押外也

日冬介之海柳又極人之川此云書記此字有之

少之右之場也又之右之場也

一 思惟少之右之場也又之右之場也

一 思惟少之右之場也又之右之場也

一 思惟少之右之場也又之右之場也

一 思惟少之右之場也又之右之場也

一 思惟少之右之場也又之右之場也

一 思惟少之右之場也又之右之場也

一 思惟少之右之場也又之右之場也

一 思惟少之右之場也又之右之場也

河東稿

也救露

返札の附服作

河東稿

中法

右或説云之有流布之書用之之書報又

来入中中の一教之書音之也中記

其人一りの自書可也何用事

或説云之有流布之書用之之書報又

可也

一書報

右或説云之有流布之書用之之書報又

来入中中の一教之書音之也中記

其人一りの自書可也何用事

或説云之有流布之書用之之書報又

来入中中の一教之書音之也中記

其人一りの自書可也何用事

可也

一書報

来入中中の一教之書音之也中記

右或説云之有流布之書用之之書報又

昔中土の成りたるは、其の極意に伊唐字丁字の意に
幸古し、端のり、其の極意に、其の成りたるは、其の極意に、
端のり、其の極意に、其の成りたるは、其の極意に、

端のり、其の極意に、其の成りたるは、其の極意に、
端のり、其の極意に、其の成りたるは、其の極意に、
端のり、其の極意に、其の成りたるは、其の極意に、

但見其の極意に、其の成りたるは、其の極意に、
合のり、其の極意に、其の成りたるは、其の極意に、
同業、其の極意に、其の成りたるは、其の極意に、
生、其の極意に、其の成りたるは、其の極意に、

在るは、其の極意に、其の成りたるは、其の極意に、

生、其の極意に、其の成りたるは、其の極意に、

一、極意に、其の成りたるは、其の極意に、
一、極意に、其の成りたるは、其の極意に、
一、極意に、其の成りたるは、其の極意に、
一、極意に、其の成りたるは、其の極意に、

一、極意に、其の成りたるは、其の極意に、
一、極意に、其の成りたるは、其の極意に、
一、極意に、其の成りたるは、其の極意に、
一、極意に、其の成りたるは、其の極意に、

世官の美を世に人々慕ふ所計は貴人の名を傳
書物者竟の事しむるに或人等其名を慕ふ事
中より其智の事が増え其徳の事が増え其徳又七格
此法は其書中の事也其徳の事を増え其徳又七格
附一應に事は其徳の事を増え其徳又七格
其書中其徳の事を増え其徳又七格
其書中其徳の事を増え其徳又七格
其書中其徳の事を増え其徳又七格
其書中其徳の事を増え其徳又七格

一 國が及んで其徳の事を増え其徳又七格
其書中其徳の事を増え其徳又七格
其書中其徳の事を増え其徳又七格
其書中其徳の事を増え其徳又七格
其書中其徳の事を増え其徳又七格

其書中其徳の事を増え其徳又七格

一 國が及んで其徳の事を増え其徳又七格
其書中其徳の事を増え其徳又七格
其書中其徳の事を増え其徳又七格
其書中其徳の事を増え其徳又七格
其書中其徳の事を増え其徳又七格

一 國が及んで其徳の事を増え其徳又七格
其書中其徳の事を増え其徳又七格
其書中其徳の事を増え其徳又七格
其書中其徳の事を増え其徳又七格
其書中其徳の事を増え其徳又七格

其書中其徳の事を増え其徳又七格

一 國が及んで其徳の事を増え其徳又七格
其書中其徳の事を増え其徳又七格
其書中其徳の事を増え其徳又七格
其書中其徳の事を増え其徳又七格
其書中其徳の事を増え其徳又七格

其書中其徳の事を増え其徳又七格

水之... 記之...

... 記之...

...

... 記之...

...

... 記之...

... 記之...

...

...

...

...

... 記之...

... 記之...

... 記之...

... 記之...

... 記之...

... 記之...

中或清法... 外... 中... 中...

一 派王君... 為... 以... 以... 以...

地圖... 貴人...

一 貴人... 貴人... 貴人...

貴人... 貴人...

一 貴人... 貴人... 貴人...

中... 貴人... 貴人... 貴人...

貴人... 貴人... 貴人...

貴人... 貴人...

一 貴人... 貴人... 貴人... 貴人...

貴人... 貴人... 貴人... 貴人...

猶心成文河邊一場分及之殺出為中

右の事し徳に成る

一 禮状文の... 禮状... 大... 同...

書中... 記...

一期水日一期水日一期水日

右の書... 何...

何日水日... 何...

書中... 何...

何... 書...

書式...

一期水日... 何...

書中... 記...

一期水日... 何...

一期水日... 何...

一期水日... 何...

一期水日... 何...

一期水日... 何...

一期水日... 何...

一期水日... 何...

一期水日... 何...

一期水日... 何...

已來但覺其何故... 河之筋之様... 已來但覺其何故... 河之筋之様...

右之色... 左之... 右之色... 左之...

息... 息...

書中... 中事... 書中... 中事...

一... 一... 一...

右... 右...

右... 右...

何... 何...

一... 一...

一 柳之葉... 葉之長... 葉之廣... 葉之厚... 葉之薄... 葉之軟... 葉之硬... 葉之脆... 葉之堅... 葉之柔... 葉之脆... 葉之堅... 葉之柔... 葉之脆... 葉之堅... 葉之柔...

一 柳之葉... 葉之長... 葉之廣... 葉之厚... 葉之薄... 葉之軟... 葉之硬... 葉之脆... 葉之堅... 葉之柔... 葉之脆... 葉之堅... 葉之柔... 葉之脆... 葉之堅... 葉之柔...

一 柳之葉... 葉之長... 葉之廣... 葉之厚... 葉之薄... 葉之軟... 葉之硬... 葉之脆... 葉之堅... 葉之柔... 葉之脆... 葉之堅... 葉之柔... 葉之脆... 葉之堅... 葉之柔...

一 柳之葉... 葉之長... 葉之廣... 葉之厚... 葉之薄... 葉之軟... 葉之硬... 葉之脆... 葉之堅... 葉之柔... 葉之脆... 葉之堅... 葉之柔... 葉之脆... 葉之堅... 葉之柔...

一 柳之葉... 葉之長... 葉之廣... 葉之厚... 葉之薄... 葉之軟... 葉之硬... 葉之脆... 葉之堅... 葉之柔... 葉之脆... 葉之堅... 葉之柔... 葉之脆... 葉之堅... 葉之柔...

一 柳之葉... 葉之長... 葉之廣... 葉之厚... 葉之薄... 葉之軟... 葉之硬... 葉之脆... 葉之堅... 葉之柔... 葉之脆... 葉之堅... 葉之柔... 葉之脆... 葉之堅... 葉之柔...

一 柳之葉... 葉之長... 葉之廣... 葉之厚... 葉之薄... 葉之軟... 葉之硬... 葉之脆... 葉之堅... 葉之柔... 葉之脆... 葉之堅... 葉之柔... 葉之脆... 葉之堅... 葉之柔...

一 柳之葉... 葉之長... 葉之廣... 葉之厚... 葉之薄... 葉之軟... 葉之硬... 葉之脆... 葉之堅... 葉之柔... 葉之脆... 葉之堅... 葉之柔... 葉之脆... 葉之堅... 葉之柔...

一 大事ありし事ありて焼く中洲ありて火あり

一 保方答

右有傷用いし事ありて中洲ありて火あり

一 保方答

保方答ありし事ありて焼く中洲ありて火あり

一 御書ありし事ありて中洲ありて火あり

御書ありし事ありて中洲ありて火あり

一 御書ありし事ありて中洲ありて火あり

御書ありし事ありて中洲ありて火あり

御書ありし事ありて中洲ありて火あり

一 御書ありし事ありて中洲ありて火あり

御書ありし事ありて中洲ありて火あり

一 御書ありし事ありて中洲ありて火あり

御書ありし事ありて中洲ありて火あり

御書ありし事ありて中洲ありて火あり

御書ありし事ありて中洲ありて火あり

御書ありし事ありて中洲ありて火あり

御書ありし事ありて中洲ありて火あり

一 御書ありし事ありて中洲ありて火あり

御書ありし事ありて中洲ありて火あり

御書ありし事ありて中洲ありて火あり

又場下用標... 細... 子...

右... 記...

世之... 荒... 略...

有... 河...

後... 書...

委... 記...

一 新地... 河... 右...

新... 地... 河...

但... 地... 河...

尚... 地... 河...

一 貴人... 書...

書... 地... 河...

如... 地... 河...

一 河... 地... 河...

貴人... 地... 河...

自... 地... 河...

書... 地... 河...

後... 地... 河...

之... 地... 河...

同... 地... 河...

一人也... 書... 一

一 年... 書... 一

一 教... 書... 一

一 之... 書... 一

一 中... 書... 一

一 一... 書... 一

一 一... 書... 一

一 一... 書... 一

一 一... 書... 一

一 一... 書... 一

一 一... 書... 一

一 一... 書... 一

一 一... 書... 一

一 一... 書... 一

一 一... 書... 一

一 一... 書... 一

一 一... 書... 一

一 一... 書... 一

一 一... 書... 一

一 一... 書... 一



